

【武庫川女子大学】

「令和7年度教職課程自己点検・評価報告書」に対するコメント

- 「学校教育センター」を設置し、会議体制を構築したうえで、事務組織との連携を図りながら、教職課程運営、就職支援、自己点検・評価など、教職課程について大学全体で組織的に取り組んでいる。
- 模擬授業、観察実習等、現場での学びの機会を早期から用意し、実践力の育成を図るとともに、実務家教員を中心に、現職教員も含め、充実したキャリア支援が展開されており、令和7年度においては、過去最多の教員採用試験合格者数となっている。
- 基準項目それぞれにおいて、全学での共通的に取り組んでいることと、学科ごとに工夫された取り組みが実施されていることが記述されており、全学や各学科での取組状況が理解しやすい。また、「Ⅲ総合評価」においても、全学的な視点から大学としての総合評価がしっかりとなされている。
- 各基準項目において、学科や専攻の単位での取り組みが記述されているが、各学科の取り組みについて、全学の教職課程を統括する学校教育センターとして、どう評価しているのかについての記述があるとさらに充実した自己点検・評価報告書となるのではないかと。
- 様々な取り組み例が記載されているが、例えば、教育学科の「教職ファイル」や「教育研究会」、健康・スポーツ学科の「教志ネット」など、さらに詳細な説明があれば、学外者からみても、特徴や優れた取り組みであることが理解しやすくなると思う。また、各取り組みの成果についても、たとえば、受講生のアンケートなど、その達成度や成果について、エビデンスに基づく記述が強化されることを期待したい。
- 「履修カルテ」の各学科での活用や教職意識の涵養や採用試験対策が、各教員のネットワークや裁量に依存したものになっているなど、見出された課題について、その改善方策を具体的に例示すると他大学の参考になると思われる。

令和8年9月1日

一般社団法人全国私立大学教職課程協会 自己点検・評価委員会